

設計ガイドライン部会 活動概要

部会長 小泉雅生（首都大学東京大学院教授）

1. 部会活動の概要

心身の健康の維持、増進のために、住まい及び住環境が果たす役割は大きい。住宅の設計にあたっては、その物理的な性能やそこで展開する生活像が個別に検証されることが多い。しかし、健康な暮らしにはそれらを横断的に捉えていく視点が不可欠である。

そこで設計ガイドライン部会においては、単体の住宅から屋外環境まで、部材や設備機器から住まい方まで、様々なスケールとレベルで住宅における健康性の検証を行い、健康を維持増進するための家づくりの具体的な指標を導きだし、健康維持増進住宅の設計ガイドラインを作成することを目的とする。

具体的には、本研究委員会の第1フェイズで作成された「健康維持増進住宅構成要素リスト」をベースとして、これを一般に広めるためのガイドブックやマニュアルとして編集していく。

2. 研究内容

2-1 健康維持増進住宅構成要素リスト

住宅における健康維持増進に関わる様々な構成要素をピックアップし、それらの構成要素を

- ・ 住まい手の健康に関するニーズ、配慮事項
- ・ 空間の計画、各部位の要素技術

の2つの軸によって整理した。各構成要素に対して「基本」「推奨」「選択」の重み付けを行った。住まい手の健康に関するニーズ、配慮事項は、「予防・安全」「静養・睡眠」「入浴・排泄・身だしなみ」「コミュニケーション・交流」「家事」「育児期対応」「高齢期対応」「自己表現」「部運動・美容」の9つのキーワードによって分類を行った。これらの結果をマトリクス上に示し、健康維持増進住宅構成要素リスト（以下、構成要素リスト）としてまとめた。

「基本」「推奨」「選択」のレベルを表4.2.3.1に、要素リストの全体構成を表4.2.3.2に示す。

表 4.2.3.1 基本・推奨・選択の概念

	レベル	考え方
①基本	健康を損なわないために守るべき必須のレベル	健康維持増進のために必要なこと、満たしておくべきこと
②推奨	健康の維持・増進のために望ましいレベル	健康維持増進に役立つこと、将来発生する体力低下に準備しておくこと
③選択	ライフスタイルや状況に応じて選択するレベル	居住者の健康状態や健康観に基づき、自由に選択されること

表 4.2.3.2 健康維持増進住宅構成要素リスト全体構成

■健康維持増進住宅構成要素リスト全体構成 101105

健康に関する配慮事項・住まい手のニーズ	レベル	構成要素												
		建 築				環 境 ・ 設 備				外 部				
		空間の計画	屋根・壁上・壁・天井	床・段差・階段・廊下	開口・建具	冷暖房・換気	給排水・給湯・衛生機器	情報・照明・その他	家具・家電・調理機器	集合住宅共用部	外構			
共通	予防・安全	基本												
		推奨												
		選択												
	静養・睡眠	基本												
		推奨												
		選択												
	入浴・排泄・身だしなみ	基本												
		推奨												
		選択												
	コミュニケーション・交流	基本												
		推奨												
		選択												
家事	基本													
	推奨													
	選択													
応じて	育児期対応	基本												
		推奨												
		選択												
	高齢期対応	基本												
		推奨												
		選択												
応じて	自己表現	基本												
		推奨												
		選択												
	運動・美容	基本												
		推奨												
		選択												

2-2 健康維持増進住宅に関わるツールの関係

健康維持増進住宅に関わるツールとして、既存建物を対象としたチェックリストである「CASBEE 戸建一健康チェックリスト」(以下チェックリスト)が作成され、公開されている。今後、居住者向けや設計者・施工者向けのガイドブックやマニュアルを作成するにあたって、これらのツールの関係・位置づけは以下の通りとなる。

「チェックリスト」は気づきのツールとして、居住者が最初に住まいにおける健康維持増進について意識を向けるきっかけとなる。

「居住者向けガイドブック」は、居住者が気づいた住まいの問題点に対して、具体的な対処方法や配慮事項を示し、新築・改修・購入の際に参考できるものとする。

「設計者・施工者向けマニュアル」は、設計者・施工者・供給者など住まいに関わる専門家が、健康配慮の技術や基準を詳述し、住まい作りに反映することができるものとする。

「構成要素リスト」はそれらのツールのバックデータとしての位置づけとなる。「構成要素リスト」を目的に応じて、編集しなおしたものが「チェックリスト」および「ガイドブック」「マニュアル」となる。

居住者向けガイドブックは特に建築の詳しい知識がなくとも気軽に参照できるものとして、設計者・施工者向けマニュアルは健康維持増進住宅について理解しながら設計・建設をすすめる専門家を想定し、技術的な側面に焦点をあてたものとする。

ガイドラインの位置づけ及び構成を示したものが図 4.2.3.3 となる。今年度は図中の居住者向けガイドブックを作成し、来年度設計者・施工者向けマニュアルの作成を行う。

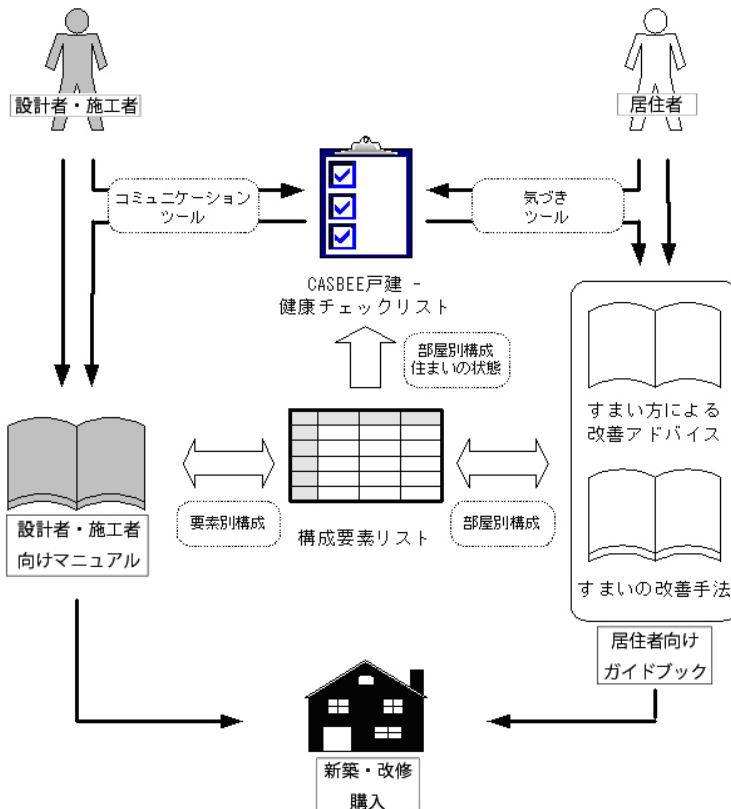


図 4.3.2.3 構成要素リスト・チェックリスト・ガイドブック・マニュアルの関係

3. 健康維持増進住宅ガイドブック

3-1 設計ガイドラインワーキング

ガイドブック・マニュアルの作成にあたって、ガイドラインワーキング (WG) を立ち上げ、実質的な作業を担うこととした。ワーキングのメンバーは、設計ガイドライン部会を中心として、健康影響低減部会、健康増進部会、設計ガイドライン部会、健康コミュニティガイドライン部会の各委員を加え、それぞれの部会での研究成果や知見を反映しながら横断的に行った。

設計ガイドラインワーキング 主査：名取発（東洋大学ライフデザイン学部准教授）

幹事：中野淳太（東海大学工学部専任講師）

3-2 ガイドブックの構成

ガイドブックの構成は以下の通りである。

1) 住まいの健康プレ診断

「チェックリスト」同様に、「住まいの健康プレ診断」として住まいの状況についての簡易なチェックを行い、「住まいかたアドバイス」として住まいかたでの改善を解説。

2) 9つのキーワードと3つのレベル

健康に関わる9つのキーワードと「基本」「推奨」「選択」の3つのレベルについての解説。

2) 各部屋・部位の解説

住まいにおける健康に関わる配慮事項の具体的な解説。「チェックリスト」との連携を図るた

め、配慮事項を部屋もしくは部位毎にソートしていき、それぞれの要素を解説していく形としている。「リビング・ダイニング」「寝室・子ども部屋」「キッチン」「浴室・脱衣所・洗面所」「トイレ」「玄関・廊下・階段」「趣味室・書斎」「家のまわり」「住宅全体で取り組むこと」の9つの部位に分類し、部位毎に「基本」「推奨」「選択」を分けて記載している。各項目に対して、関連するキーワードとレベルを示すアイコンを付している。ここでは住宅に関わる専門的な知識がない居住者でも理解しやすいよう、できるだけ平易な用語を用い、イラストを織り込んだビジュアルな表現としている。



図 4.3.2.4 ガイドブック表紙

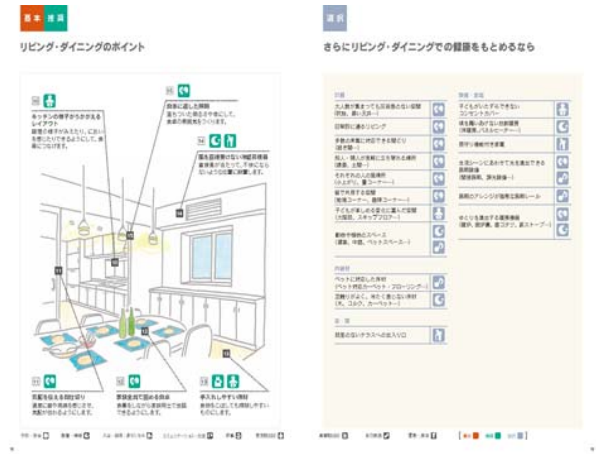


図 4.3.2.5 各部屋・部位の解説

3) 「健康に暮らす住まい」に向けて

住まいにおける健康の維持・増進を伝えるイメージ図。配慮事項をキーワードごとにビジュアライズした一枚のイラストを作成し、健康維持増進住宅の普及へとつなげていく。

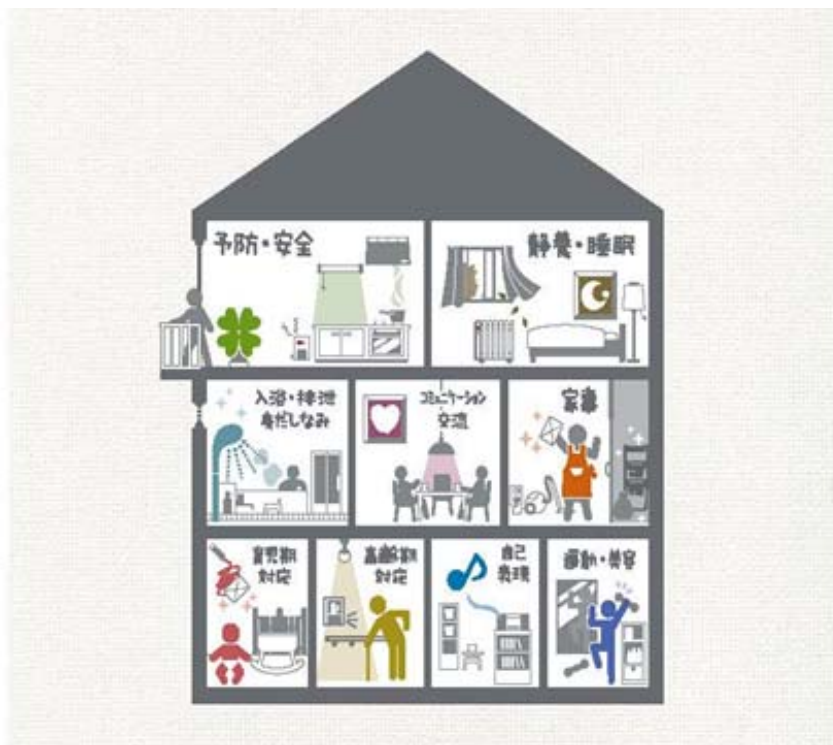


図 4.3.2.6 「住まいにおける健康」イメージ図

3-3 ガイドブックの使い方

ガイドブックの使い方およびその効果として、以下が考えられる。

1) 住まい方改善のためのチェックツール：

居住者が現在の住宅と住まい方について健康の観点から見直す。健康に配慮した住宅への意識の向上を通じて、住まい方の改善をはかり健康維持・増進につなげる。

2) 設計段階でのコミュニケーションツール

新築、増改築、改修の設計段階において、居住者が健康に関するニーズを設計者・施工者・供給者（建築家・工務店・住宅メーカー、デベロッパーなど）に伝える。また設計者・施工者・供給者が居住者の健康に対するニーズをすくい上げる。

3) 新築・改修時の設計・施工段階でのチェックツール

設計者・施工者・供給者が、具体的な設計案や施工方法のチェックを行う。

4) 購入検討段階でのチェックツール

居住者が、既存住宅や建売住宅、集合住宅などを購入する際のチェックを行う。

4. まとめと課題

今年度は、成果物として居住者向けのガイドブックを作成した。次年度は、設計者・施工者向けのマニュアルの作成を行うこととなる。

4-1 マニュアルの作成

設計事務所・住宅メーカー・工務店・デベロッパーなどの住宅に関わる専門家が利用することを想定した、より詳細で技術的側面に焦点を当てたマニュアルを作成する。専門家が参照しやすいソーティングが必要であるとともに、情報が多岐にわたるため、膨大な情報を整理して全体を俯瞰できることも肝要である。各項目に関わるエビデンスや詳細な数値データは、リンク先を明示するなど他の指針を参照するなどの配慮が求められる。

4-2 構成要素リストの更新

新たな研究知見や技術開発に基づき、順次構成要素の見直しを行う。ガイドブックの作成過程での調整を反映し、構成要素リストを更新していく。

4-3 ガイドブックの普及

今年度の成果物であるガイドブックを活用して、健康維持増進住宅の概念を広く一般に伝えていく。学習課程とのリンケージをはかり住環境教育の中に位置づけるなど、さまざまな機会を利用して、幅広い年代に対して普及を図っていく。